

# 2017年度 事業計画

(2017年4月1日から2018年3月31日)

## 1. 2017年度の事業計画概要

2017年度は、世界景気の追い風を受けて、堅調な景気回復基調の中スタートしましたが、自国優先主義を主張する国が増えつつあり、世界経済を揺さぶる政治リスクや、円高などの問題もくすぶる中、先行きへの不安感が、底堅い回復を実感しにくくしています。

また、人手不足や人口減などで将来の成長に自信を持ってない企業は、賃上げによる人材確保に慎重になり、むしろサービスの縮小や省力化などに尽力しています。これも景気回復の広がりを制約する要因になりつつあります。

2017年度においても、次の時代を担うとも言われるIoT、ビッグデータ、ロボット、人工知能(AI)などによる技術革新は、益々進化していくものと思われます。そして、中小企業にIoTが普及すれば、生産性向上や人手不足の解消、長時間労働の是正といった問題解決に貢献し、人件費の高い日本のような先進国の工場も、世界と戦えるコスト競争が可能になるとも言われています。

これら技術の更なる進化が、あらゆる分野において、ビジネスのやり方を大きく変えていくものと思われます。こうした世の中の動き(変化)を迅速にキャッチして適性に対応することが、当業界においても将来のリスクを回避して、次の発展に繋がるものと思います。

2017年度は、こういった先端技術の活用事例から環境に配慮した持続可能な製品開発に関する情報提供に取り組んで参ります。

また、厚生労働省において進められている食品用容器包装のポジティブリスト制度導入に向けた進捗状況に関して情報提供並びに検討を行って参ります。

また、技術委員会を通して最新の技術情報を提供して参ります。

更には、キャップ春秋の発行、ホームページを活用した情報の提供及び大崎フォレストビルディングのプラスチックキャップ回収窓口などの活動を行って参ります。

## 2. 個別の事業計画

### 2-1 技術委員会活動

#### (1) 食品用器具及び容器包装の規制に関する動向について

容器包装の規制に関する検討会が昨年8月から行われ、2017年5月25日の第8回検討会で終了しました。今後、この検討会の取りまとめと「自主管理ガイドライン」が厚生労働省により公表され、この方向性に沿って、具体的な制度設計が進められることになっています。当協会としても、この推移を注視して、情報提供を行って参ります。

#### (2) 各社のサステナビリティ(持続可能性)への取り組みに関する情報

持続可能な社会に向けて、環境をテーマとした製品開発を行う企業が増えてきました。この各社の取り組みを把握し、当業界も社会の流れに即した対応を取っていくことが重要となってきます。これら当該情報の提供に努めます。

#### (3) IoT(モノのインターネット)活用の事例等について

あらゆるモノをインターネットで繋ぎ、省エネ、燃費改善、物流の効率化、シェアリ

ングなどを実現して、利益アップ、顧客のコスト削減、環境負荷低減といったメリットを与える IoT の活用が社会に広がりつつあります。当業界においても、生産性の向上や環境ビジネスのヒントとなり得るものと思われれます。

前期に引き続き IoT や AI の活用事例について、情報の提供に努めます。

(4)新製品及び新技術に関する情報について

- A. 人工光合成によるプラスチックの製造について(5月に実施)  
化石燃料に変わる資源の活用事例(CO<sub>2</sub>を排出しない資源への代替)
- B. 包装容器(キャップ)の新製品、新技術などの情報提供
- C. その他新技術についても情報提供を行います。

(5)容器入り飲食料に関する情報について

(6)流通業界の動向について

近年、流通業界が商品の方向性に大きな主導権を握るようになってきています。

この流通業界の動向を素早くキャッチして、社会のニーズに合った製品開発を進めることが益々重要になってきます。変化の激しい流通業界の動向に関する情報、即ち、製品開発のヒントとなるような情報の提供を行います。

(7)その他関連事項の検討なども行います。

## 2-2見学会の開催

本年度の見学会は、10月20日(金)に山梨県にあるワイナリーでの開催を予定しています。

最近キャップの使用も多くなってきましたワイン製造のしくみなどを直に体験して、その特性を通して、日本のワイン文化やその包装形態の歴史などを学んできます。

モンデ酒造株式会社、株式会社サドヤを検討しています。

## 2-3 キャップ春秋の発行

2017年度における技術委員会での検討内容、見学会の内容、その他当協会の活動内容などを掲載します。

## 2-4 ホームページ(HP)を活用して情報の発信

ホームページを活用して、各種情報の掲載や当業界の価値のアピールなどを行います。HPの内容を常にリニューアルして更に充実させます。

## 2-5 大崎フォレストビルディングのプラスチックキャップ回収窓口

本年度は、大崎フォレストビルディングでの回収窓口を継続すると共に、当協会或いは当業界の社会貢献責務として、使用済みキャップの回収・再利用を更に進めるため、何ができるのかを技術委員会を通して考えていきたいと思います。